

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

深部体温リズムに着目した フレイル介入法の確立を目指して

生体リズム研究チーム
森健太郎チームリーダー

2026年10月15日（木）14時10分～
第1研究棟2階大会議室

日本における要介護認定者数は年々増加しており、今後も更なる増加が見込まれる。その軌道を変えるためにはフレイル状態に対して早期に適切な介入を行う必要があり、最適な介入法の確立が急務である。近年、視床下部の概日時計の振幅低下や乱れが個体老化の推進要因であり、そのリズムを再同調・増強することで寿命延長や老化マーカーの改善が可能であることが示された（**Cell, 2026**）。また、我々も概日リズムの代表格である深部体温リズムを老齢期に若く維持できる個体ほど残存寿命期間が長いこと、特定の骨格筋由来分泌因子の濃度を若く保つことで若齢様の深部体温リズムを取り戻し、寿命期間が延伸することを突き止めた（**Cell Metab, 2026**）。本セミナーでは、深部体温リズムに着目したフレイル介入法の確立を目指し、**2026年2月**に発足した当研究チームの取り組みを紹介したい。